

投資事業評価調書（継続：再々評価）

部課室名	街路課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	街路課長 足立眞清 (宮本 眞介)	内線	4 4 7 4 (4482)
------	-----	---------------------	----------------------	----	-------------------

事業種目	連続立体交差事業	事業採択年度	昭和51年度		現計画	再評価時点
事業名	JR山陽本線等 姫路駅付近 連続立体交差事業	着工年度	昭和63年度	総事業費	594億円 (内補助516億円)	574億円 (平成10年度 時点事業費)
		再評価年度	平成10年度	内用地補償費	78億円 (内補助70億円)	78億円
事業区間	姫路市市之郷～岡田			完成予定年度	平成22年度	平成17年度
所在地	姫路市市之郷～岡田			進捗率 (内用補進捗率)	55%(99%)	38%(63%)
事業の目的				事業内容		
姫路市中心市街地の渋滞解消と交通の円滑化 播磨地域の中核都市である姫路市の中心市街地において、鉄道を高架化することにより、慢性渋滞の解消と交通の円滑化を図る。 姫路市中心市街地の活性化 貨物・車両基地の移転跡地を利用した面的整備事業と一体となって、中心市街地の活性化を促進する。				高架延長 L = 6,629m (山陽本線4,260m 播但線1,036m 姫新線1,333m) 高架化する駅 姫路駅(ホーム3面7線) 貨物基地移転(別所地区) 7.8ha 車両基地移転(飾西地区) 2.9ha 立体交差する道路 9路線 除却する踏切 7箇所(うち除却済4箇所) 関連施設 山陽電鉄線(別線切下げ)870m		
進捗状況	現状 貨物基地・車両基地を平成6年3月移転完了し、山陽本線東部高架区間(1,630m)について、平成9年6月に高架切替を行った。残る駅部及び西部高架区間(L=1,820m)について、平成17年度末の高架切替に向けて、平成14年10月に、山陽電鉄と移設工事に関する基本協定を締結し、移設工事に着手するとともに、JR山陽本線西部高架区間にも本格着手している。 経緯 東部高架区間の高架切替の遅延、及び埋蔵文化調査に相当の期間を要するとともに、山電高架下店舗の移転交渉に日時を要したため、山陽本線等の高架切替が遅延することとなった。 今後の予定 ・山陽本線高架切替 平成17年度予定 ・姫新線・播但線高架切替 平成20年度予定 ・事業完了 平成22年度予定					
評価視点	評価結果の説明					
(1)必要性	姫路市中心市街地の活性化のためには、鉄道の高架化による交通の円滑化や区画整理事業と一体となった街路網の整備の必要性は、従前と変わりはない。					
(2)有効性・効率性	複数の踏切を一時に除却できることから、姫路市中心部の街路網の整備を効率的に進めることができる。 費用便益費 B/C = 3.1					
(3)環境適合性	交通渋滞の解消による、二酸化炭素等の大気汚染物質の削減、弾性直結軌道、ロングレールの採用による鉄道騒音の低減等、市街地の環境改善に資するとともに、駅舎や関連街路などバリアフリー化を図ることが可能となる。					
(4)優先性	平成17年度末の山陽本線高架切替に向け、山陽電鉄線の移設工事、西部高架工事など事業促進中であり、今後の事業計画が明らかであり、また、事業効果からも早期完成が優先される。					
再々評価の結果	継続	左の理由	上記理由により継続が妥当である。			